

4. 研究会「講師」からの思い出と祝辞

祝 100 回 私と自立研究会との出会い

田村 力

(第 32 回例会講師 田村ヘルステクノ研究所代表)

「父が倒れましたので、札幌での会合を中止させてください。」お嬢様から突然の電話を頂いた。私が九州への出張途中、広島の実家へ帰省していた時のことである。当時私は、森山さんの依頼を受けて、札幌市にある食品会社の商品開発のお手伝いをさせて頂いていた。開発も佳境に入りつつあった時のことである。

あの元気な森山さんがなぜ、なにが起こったのだろう。電話を受けた時には病状が判明していなかった。会合を中止するぐらいだから、相当重篤な状況なのであろう。もしかして、私と同じ癌。一瞬、私の脳裏を閃光が走った。しかし、あまりにも急で、突然の出来事である。もしかして、心臓。いや待てよ、脳。

色々考えはしたが、脳ではなく、心臓であろうと勝手に想像していた。心臓ならば、あの先生に頼もう。私の出番があるかもしれない、とその時思った。

暫くして、私は、病状を知った。そして、見舞いに参上した。後で知るあの苦しい葛藤や主体の変容が起きる前の森山さんに会ったのである。じつは、この出会いこそが、今思えば私の自立研究会との出会いであったと思っている。

私は、第 32 回の例会で「免疫と食事」の話させて頂いた。主宰の森山さんの目的は、免疫機能を理解することによって、人の心の葛藤やそれによって発生する主体の変容のメカニズムが解明されるのではないかと、意図しておられると想像はできた。

しかし、私の「免疫と食事」が、その意図にフィットしたかどうか今でも疑問である。

もし今後、機会があれば「生活習慣病と食事」をテーマにお話しできればと思量しているところである。

なぜならば、リハビリ・エリート戦士の皆様にとって、このテーマこそ、最も重要な生活の武器になると考えているからである。